

# ■福祉心理学科 2017 年度開講科目 カリキュラムマップ

## 福祉心理学科 ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

福祉心理学科では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

心理実践力を修得するために、以下の7つの資質・能力を育てます。

- 総合的な人間理解力**
  - ①人の心には、人々に共通する心の特徴（一般の原理や法則）と、人それぞれの心の特徴（個人差や多様性）があることを理解できる。
  - ②人の心と行動は、社会・環境と相互に影響しあっており、社会・環境の影響で変わること（可塑性）を理解できる。
  - ③生活場面における人の心と行動について、心理学および隣接領域も含めて、さまざまな観点から幅広く総合的に理解できる。
- 根拠に基づく情報発信力**
  - ①心理学の方法（文献検討、観察、実験、調査、面接など）を用いて、客観的なデータを集めることができる。
  - ②心理学の方法で得たデータを図や表を用いて整理し、他者にわかりやすく伝えることができる。
- 批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力**
  - ①生活場面における人の心と行動を適切に把握して分析し、より本質的な問題や解決の目標に気づくことができる。
  - ②さまざまな分野の知識を柔軟に組み合わせ、他者の考え方や当事者の気持ちも考慮し、予防策や解決策を見出すことができる。
- 共感と自己尊重に基づくコミュニケーション力**
  - ①他者の気持ちや考えを共感的に理解し、対話のなかでお互いの理解を深めることができる。
  - ②他者の気持ちを尊重しながら、自分の気持ちや意見を適切に表現できる。
- 自己理解に基づくセルフコントロール力**
  - ①自分の考え方、気持ち、行動とそれらの特徴に気づくことができる。
  - ②怒りや不安などの自分の感情に気づき、ストレスに対処することができる。
  - ③自分の成長につながる目標を立て、やる気（モチベーション）を高め、保つことができる。
- 集団理解に基づく対人調整力**
  - ①集団の目標を共有し、役割を分担し、取り組む課題を明確にすることができる。
  - ②集団で情報を共有し、メンバーのやる気（モチベーション）に心を配り、自由に意見を出してもらうことができる。
  - ③メンバーのやりがいや喜びを共有し、メンバーの取り組みを前向きに評価できる。
- 心理学の学びを生かした社会貢献力？**
  - ①これまでの学びを統合して、人々の幸せや福祉に貢献することができる。
  - ②個人や社会に役立つテーマを設定し、これまでの学びを活かしながら当事者や関係者とともに課題の解決に取り組むことができる。

## ●専門必修科目・専門選択必修科目・専門選択科目A群

科目コード*	科目名称 (旧カリ=旧カリキュラム 受講者用科目)	主題	到達目標	ディプロマ・ポリシーとの関係 (◎特に重要, ○重要, △望ましい)						
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
CC2103	福祉心理学	現代の日本社会は、まさに「ストレス社会」であるといえます。そのストレス社会を生き延びるのはそう簡単なことではありません。現に複雑・多様化する日本社会にあって、「心」の悩みを抱えている人が急速に増加してきていることがよい例でしょう。福祉心理学は、社会的に弱い立場にいる人々の心の問題を受容し、理解しながらどのような関わりができるかを探る、「福祉」と「心理」の融合を目指した新しい学問です。実際的には、福祉の世界に「心理学」の知見を活用し、人々の「生活の質」(QOL)を向上させ、幸せの追求を援助するための方法について学んでいきます。	1) 一人一人の幸せ追及とQOL(生活の質)の向上に、「福祉心理学」がどのように貢献できるか説明できる。 2) 「心理学」の理論や手法を応用して、人々の福祉に対処するための方法を解説することができる。	◎	○	○	◎	○	○	◎
FA2501	心理学概論	生命体を目指すのは「生きる」ことです。ところが「うまく」生きるために、進化の過程で「心」という働きができ、心の働きはしだいに精巧になり、ものの世界とは別に心の世界をつくりました。その心の働きと、心の内容についてのまとまった知識が心理学です。心理学の概要を、まず心理学の問題史と研究方法の特徴を通して学び、そのあと、心は発達のいかにどのように形成されるのか、人が環境についての情報を入手するための心の働き、欲求や願望の充足を求めるときの心の動き方、経験を蓄積し利用する心の仕組み、困難な場面に直面したときの心の動き方と心の使い方、一人ひとりの心の働きの個性的特徴とその捉え方などについて学んでほしいと思います。心の「働き」とは、たとえば「見る」「考える」などで、心の「内容」とは、その結果できあがったイメージや知識などのことです。	心理学を実学ととらえ、心理学諸理論を説明できることに加え、実生活に応用できる。	◎	△	○	△	△	△	◎
FB2505	心理学実験Ⅰ	心理学は行動科学の一分野であり、どのような条件の下でどのような行動が生じるか、あるいは、ある行動はどのような条件で起こったのかなどということを明らかにしようとしています。そのための方法にはいくつかありますが、実験法もそのひとつです。科学的知識とは、客観的事実として実証されたものをいいますが、心理学では、特定の要因(独立変数とよぶ)を系統的に変化させ、意識や行動(従属変数)がどのように変わるかということを明らかにしようとする手法があり、これを実験法と呼んでいます。不測の要因が介入しないように条件を統制するところに実験法の特徴がありますが、心理学実験Ⅰ・Ⅱでは、さまざまな角度から、この実験法について、その基礎を学ぶことを目標とします。	1) 心理学において「実験」という手法がどのように行われるのか説明できる。 2) 「独立変数」や「従属変数」などの意味を説明できる。 3) 「要因を操作する」や「条件を統制する」という行為の意味や意義を説明できる。 4) 実験法という心理学方法論の特徴を説明できる。 5) 基本的な心理学的実験を自ら計画して実施することができる。	◎	◎	◎	○	○	△	△
FB2506	心理学実験Ⅱ	心理学は行動科学の一分野であり、どのような条件の下でどのような行動が生じるか、あるいは、ある行動はどのような条件で起こったのかなどということを明らかにしようとしています。そのための方法にはいくつかありますが、実験法もそのひとつです。科学的知識とは、客観的事実として実証されたものをいいます。心理学では、特定の要因(独立変数とよびます)を系統的に変化させ、意識や行動(従属変数)がどのように変わるかということを明らかにしようとする手法があり、これを実験法と呼んでいます。条件を厳密に統制するということに実験法の特徴がありますが、心理学実験Ⅰ・Ⅱでは、さまざまな角度から、この実験法について、その基礎を学ぶことを目標とします。	1) 実験テーマおよびデータ収集方法を理解し、適切な手順でデータ収集を行うことができる。 2) 得られた結果を適切に整理し、実験テーマののった意味づけ(考察)をすることができる。 3) 研究記述のフォーマットにのって、レポートを作成することができる。	◎	◎	◎	○	○	○	○
FB3508	心理学研究法Ⅰ	この科目は、心理学において使われる代表的な方法について、基本的な理解を図ることを目指しています。代表的な方法の一つである「実験法」については、別に「心理学実験Ⅰ」、「心理学実験Ⅱ」として科目が設定されているので、ここでは、実験法以外の方法について取り上げることにします。また、「検査法」については、「研究法Ⅱ」のスクーリングにおいて解説する予定になっています。心理学は、実証的学問です。実証的というのは、データを収集し、それを分析して、その結果に基づいて論を展開するということです。したがって、どのようなデータをどのような方法で収集するかということが、心理学の研究においてはきわめて重要な意味を持つこととなります。つまり、心理学の研究において使われる方法は、正確にデータをキャッチできるものであるだけでなく、客観的に評価される科学的なものでなければなりません。同時に、心理学の研究の対象は、多くの場合、人間ですから、どのような方法を使う場合でも、そこには一定の倫理性が保たれていなければなりません。この科目では、単に研究法の習得を目指すだけでなく、倫理性・科学性の問題を含めて、心理学における方法論の理解を目標とします。なお、この科目では平成19年度よりスクーリングを開講しました。このスクーリングは必須ではありませんが、できうる限り参加することをお勧めします。	1) 心理学研究を実施する上で配慮すべき倫理について説明できる。 2) 独立変数や従属変数など、心理学研究の基本的な考え方を説明できる。 3) 心理学研究における「観察法」、「面接法」、「質問紙法」のメリットとデメリットについて説明できる。 4) 「面接法」、「観察法」、「質問紙法」を用いた研究計画をたてることができる。	◎	◎	◎	◎	○	○	◎
FB3509	心理学研究法Ⅱ	この科目は、心理学において使われる代表的な研究の方法について、基本的な理解を図ることを目指しています。代表的な方法の一つである「実験法」については、別に「心理学実験Ⅰ」、「同Ⅱ」として科目が設定されており、さらに「心理学研究法Ⅰ」において、観察法、面接法、質的分析、質問紙法の4つについて学習します。「心理学研究法Ⅱ」のスクーリング(2単位6コマ)では、検査法に関する理解と調査法のデータ分析(心理統計)に関する理解を図ることを目的とします。具体的には、1日目の最初の2コマで検査法全般に関する講義を行い、3コマめに心理統計の基礎に関する講義を行います。さらに、2日めには、 $\chi^2$ 検定やt検定、相関分析といった基本的な検定法・データ分析法についての講義を行います。その中で、統計的仮説検定の一連の流れや各検定法・分析法について、さらには、結果のまとめ方などについてより実践的な理解を目指すために、パソコンの統計処理ソフトをデータ例にもとづいて操作することも行っていただきます。講義内容の概要は以下のとおりです。 (1)検査法について(担当 木村 進ほか) ①心理検査法とは 検査法実施上の留意点 ②知能検査(ウエクスラー系・ビネー系)の概要と留意点 ③発達検査の概要と留意点 ④性格検査(Y-G性格検査など質問紙法、ロールシャッハテスト・TATなど投影(映)法、作業検査法)の概要と留意点 (2)心理統計とデータ分析について(担当 白井秀明ほか) ①心理統計学の基礎についての講義(仮説演繹法、実験的研究と相関的研究、心理統計がなぜ必要か、サンプリングと剰余変数の統制、統計的仮説検定の流れなど) ②統計処理(有意差検定、相関分析等)についての講義(解説)と演習	1) 知能検査・発達検査・性格検査の概要と留意点を説明できる。 2) 手順ののって統計的仮説検定の一連の流れを自ら実施することができる。 3) 心理学研究及び研究法を用いる際の倫理を理解し、これからの学修に生かすことができる。	◎	◎	◎	○	○	△	△

FC2514	社会心理学	社会心理学は「人間がその場の状況や他の人々（社会）とのかかわりの中で、どのように影響を受けて行動するのか」という視点から人間を研究している学問です。研究テーマは、「人の第一印象はどうやって決まるのだろうか?」「意見の合わない友人を説得するにはどうしたらいいだろうか?」「彼はなぜあんなに攻撃的にふるまっているのだろうか?」といった、身近な疑問や発想から生まれています。その意味では、「答えは自分の中にもある」と考える人も多いかと思えます。しかしながら、社会心理学を学び、興味深い数々の実験結果を知ると、「自分の考え」が必ずしも「科学的に証明された事実」と一致しないことに驚くことでしょう。社会心理学は、非常に親しみやすい分野でありながらも、自分たちの身のまわりに起こる出来事や自分たちの考え方や行動について、「常識」とは違った観点から見直すきっかけを与えてくれます。	1) 自己や他者の行動、集団行動における社会的・心理学的な法則性、規則性を理解し説明できる。 2) 社会的な事象の因果関係について客観的に説明できる。	◎	◎	◎	○	◎	◎	○
FC2515	家族心理学	家族は、人間がかかわりをもつ人間関係や集団のなかでもっとも基本的なもの、つまり「共同生活の最小単位」といえます。歴史のなかで誕生し、ライフコースのなかで形態を変えて存続し、そして消滅し、ふたたび新たな家族として生成されます。私たちは生涯にわたって、家族から大きく影響を受け、また、家族に影響を与えながら存在しています。家族心理学では、家族をシステムとして理解する視点（家族システム理論）を学び、家族をどうとらえるか、家族をどう見立てるか、家族をどう援助するかについて学んでいきます。また、家族がたどる発達段階について学び、それぞれの時期に家族が直面する危機とその対応について学んでいきます。	1) システムとしての家族を説明することができる 2) 家族がたどる発達段階と危機、援助のポイントについて説明することができる 3) 家族を対象とする心理臨床と、個人を対象とする心理臨床の違いについて説明することができる	◎	△	◎	◎	△	◎	○
FC2523	産業心理学	産業心理学はモノやサービスの生産や消費といった場面における人々の行動や心理過程を明らかにする学問で、研究内容は「組織行動」、「人事」、「安全衛生」、「消費者行動」の4つに大別されます。組織行動領域では、ワーク・モチベーションや意思決定、チームワークなどが、人事領域では採用や選抜の方法、キャリア発達支援、人事評価などが研究対象となっています。安全衛生領域では、ヒューマンエラーや安全工学、職務ストレスなどが、消費者行動領域では購買行動、広告効果、心理的会計などが研究対象となっています。これら4領域の研究を通して、組織全体が持続して目標を達成し、組織の中で働く人々が効率よく、成果を収めながら、生き生きと、自己成長しながら、他の人と協働して、安全に働くことの実現を目指しています。また、わたしたちは、生産者として生産にかかわり、消費者として消費にかかわっています。これら双方の立場の観点から、今日の産業に携わる人々の心理を探ることも産業心理学のねらいです。	1) 組織成員の心理について、ワーク・モチベーション、ジョブ・ストレスといった観点から説明できる。 2) 組織が組織成員に及ぼす影響を、集団意思決定や公正といった観点から説明できる。 3) 産業場面における効率性と安全性の両立について、科学的な管理理論やヒューマンエラーといった観点から説明できる。 4) 消費者行動の背後にある心理プロセスについて説明することができる。	○	△	△	△	△	◎	◎
FC2689	人間関係論	この講義を通して、人間関係の端緒、深化、崩壊に関する要因と理論を、自分で説明できるようになると思います。また、人間関係を悪化させてしまう誰しもが有する認知的なゆがみについてを理解し、この観点から、自分の人間関係を分析できるようになっていただきたいと思えます。	1) 人間関係の維持や崩壊に関する理論をあげ、それぞれについて違いに留意しながら説明することができる。 2) 他者からの拒絶について、拒絶されても反社会的にならずにすむメカニズムを説明することができる。 3) 人間関係にかかわる様々な認知バイアスをあげ、それらを説明することができる。 4) 人間関係に関する諸理論やそれらにかかわる要因を理解し、それらを用いて現実の人間関係を分析し、問題を解決できる。	◎	○	△	◎	◎	◎	△
FC3504	環境心理学	「環境心理学」は「心理学」の研究分野の一つです。「心理学」の大きな目的の一つは人間理解にあるのですが、「環境心理学」はとくに、ヒトと環境とのさまざまなかかわりのあり方を通して人間を理解するといってもよいでしょう。よく「人は人によって人となる」などといわれますが、これは人と人的環境、もっと大きくとらえれば人と社会的環境とのかかわりについて述べたものです。また私たちは、毎日の生活を快適にするために、部屋のインテリア、採光、温度などに配慮します。これは物理的環境に手を加えることとなります。街の景観や都市計画、産業地帯の整備などは、はるかに規模の大きいものになるわけです。それによって私たちは快適感や満足感を味わうことができ一方で、目的や方法が身勝手、環境への配慮の足りないものであれば、環境を汚染し取り返しのつかない破壊を地球に残してしまうことにもなります。この科目では、人間の成長発達に及ぼす環境の影響や、快適環境作りなど、基礎と応用の両面にわたって勉強しながら、一方では破壊、他方では保全といった、相反する行動を行う人間の心の世界をも考えてみたいと思えます。	1) 環境心理学の代表的な研究について内容を説明できる。 2) 環境心理学の応用的な研究について内容を説明できる。	△	◎	○	×	×	○	○
FD2502	生涯発達心理学	発達を、人の一生における変化として捉える考え方は比較的新しいものですが、この科目においては、「生涯発達」という観点から発達について基本的に理解することを目指しています。発達ということを経験的に捉えるのは、さほど難しいかもしれませんが、ここでは、その基本にある発達理論の理解を土台として、「発達は積み重ねである」ということの意味を具体的に理解することが目標です。たとえば、一人の老人を理解しようとする時に、その人の現在を理解するだけでなく、その人がこれまでどう生きてきたかということを理解しなければ十分とはいえません。逆に言えば、子どもから老人まで生涯を見通すことなのです。	1) 「生涯発達」の意味を理解し、自分の発達の経過を具体的に振り返ることができる。 2) 「発達」は上昇的变化と下降的变化として説明されることを理解し、自分が経験してきた変化について具体的にとらえることができる。 3) 発達をもたらす要因は何であるかについて理解し、教育や保育、あるいは育児において、具体的な働きかけのあり方について考えることができる。 4) 発達のそれぞれの段階における特徴を理解し、自分および自分の周りにいる人々の具体的な姿に結びつけて説明することができる。 5) 「発達は積み重ねである」ということについて、「発達課題」という視点から具体的に説明することができる。	◎	△	◎	○	○	△	○
FD2516	児童青年心理学	児童期は、狭義には学童期を指しますが、広義には人間の誕生から、胎児期、新生児期、乳児期、幼児期、学童期までの、青年期に至る前の発達時期のすべてを包みます。児童青年心理学は、児童期と青年期における発達の特徴、状態や行動の一般的傾向を把握するだけでなく、発達の過程やその要因、条件の分析やメカニズムを明らかにする発達心理学の一分野です。それらを解明するためには、家族心理学、教育心理学、臨床心理学、コミュニティ心理学など他の領域はもちろん、社会学、生物学、文化人類学など近接する諸科学の視点を持つことも必要になります。この科目では、児童と青年を心理学的に理解するため、基本となる理論を学んでいきます。	1) 児童期と隣接した発達時期の相違点を、領域別に説明できる。 2) 児童期を学校生活の低学年（1-2年生）、中学年（3-4年生）、高学年（5-6年生）に分け、それぞれの特徴を比較して説明できる。 3) 今日の子どもの社会との関わりの上での特徴や問題点、発達のつまずきや節目について説明できる。 4) 青年期と他の発達時期の相違点を、領域別に説明できる。 5) アイデンティティの形成プロセスを理解し、4つのステータスのそれぞれの特徴を比較説明できる。 6) 青年と社会との関わり的重要性及び問題点について、「問題行動」「キャリア形成」などの領域別に説明することができる。	◎	○	×	○	◎	×	○
FD2517	老年心理学	これまで老年期（高齢期）は一般的に否定的なイメージでとらえられてきました。しかし人間を生涯発達する存在として考えると、老年期は発達の最終段階にあたる時期となります。人間は加齢に伴ってさまざまな身体的変化や心理学的な変化を示しますが、それが実際にはどのように起こってくるのかを系統的に学習していくのがこの科目のねらいです。具体的には、老化の基本的考え方や知能に代表される精神機能の変化、老年期のパーソナリティと適応、人間関係、認知症の問題などについて、心理学的な理解を深めていくことがこの科目の大きな目的です。	1) 高齢期のとらえ方や高齢者を取り巻く現状について、基本的な事項を説明できる。 2) 高齢期に生じる変化や高齢者の心理について、実生活に照らして解説できる。 3) 認知症に関する基礎的知識を得たうえで、心理を理解した支援の要点を述べることができる。 4) 高齢者の心理を理解するための要点について、自分の意見を述べるることができる。	◎	◎	○	○	△	△	◎
FE2513	教育心理学	「心理学」の中で最も有名な研究のひとつに、エビングハウスが行った記憶の研究があります。「ひとはなぜ忘れるのか?」という記憶や忘却のメカニズムをはじめ科学的に研究したからです。一方、その「心理学」の一分野である「教育心理学」では、同じ記憶や忘却を研究するのに、「どうしたら忘れなくなるか?」という発想をします。この発想の違いが、教育心理学とはどういう考え方をとする学問か、ということを考える際の手がかりになると思います。えっ、まだよくわからないって……。では、ズバリ言います。教育心理学的に考えると、「学ぶ人の味方になって考える」ことなのです。子どもであれ大人であれ何かを学ぶ人は、まちがったりつまずいたりすることもある、それはきつと彼ら彼女らなりの理由があるにちがいない、その「言い分」にじっくり耳を傾けて、その対策を考えてみようじゃないか、というわけです。ですから、子どもに何かをわかりやすく教えたいと思っている先生、いやなにも学校教育に限らず、人と楽しく教育的なかかわりを持ちたいと思っている人にとって、少しでも役に立つ知識や技術や考え方、そういうものを提供するのが教育心理学だと考えています（かなり私の希望が入っていますが）。本科目で使用する教科書には、算数や国語などの具体的な教え方はほとんど書かれてありません。でも、「学ぶ人の味方になりたい!」と考えている人にとっては、大切な考え方や研究が数多く紹介されています。「ほほう、こういう考え方や研究は学ぶ人に味方になっているな」などと読み進めていただければ、と思います。もちろん、ご自分の「教育」「学習」「発達」などに対する考え方とつきあわせて読むということも大切なことです。教科書に書いてある心理学者の名前や考え方をただ記憶するだけでは、教育心理学って面白い!とは思ってもらえないと思うからです。	1) 人間の子どもが成長・発達していくことにとって「教育」が不可欠であることについて、具体例を挙げて説明することができる。 2) 「教育と発達の関係」について、2つの大きく異なる考え方を学び、どちらが「学ぶ人（子ども）の味方」になる考え方なのか、自分なりの理由を持って説明することができる。 3) 「学ぶ」というプロセスが「わかる」と「わからなくなる」の繰り返しであること、「つまずき」を学びのスタートにすることによって「学ぶ楽しさ」が生み出されること等の意味について、具体例を挙げて説明することができる。 4) 学校などで行われる授業も含めて、ある目的を持った活動を続けていくためには、「自己評価」が大切であることを、自分の仕事や生活の中にある目的的活動を例に説明することができる。	○	×	◎	◎	△	×	△
FE3518	障害児の心理	「障害」という言葉を聞いて、皆さんはどのような印象や感想を持つのでしょうか。「心身障害児」とか「障害者」とよぶ以上、そこには何か意味があるはずですが。保育や教育の場面を例にとれば、障害をもった子どもの保育・教育には、その障害の特徴に合わせた特別な配慮が必要だということの意味していると思えます。障害をもった子どもの保育・教育が的確に行われるためには、「障害」についてきちんと理解し、「障害をもつ人」の心理について基本的な認識を深める必要があります。ここでは、障害をいくつかの種類に分け、その特徴、原因を理解するとともに、障害をもつ子どもや大人がどのような心理状態に陥りやすいかということを学習します。	1) 「障害」の意味をさまざまな角度から考察し、特に、その社会的な意味について自分の考えを述べることができる。 2) さまざまな種類の障害について理解し、学習前に抱いていた障害についての知識や考えとの異同を具体的に明らかにすることができる。 3) 特に、「(軽度)広汎性発達障害」についての理解を深め、それぞれの障害を持つ子どもへの働きかけ（育児・保育・教育）のあり方について具体的に考えることができる。 4) 障害児をもつ家庭への支援について深く理解し、自分がかかわるとしたら、どのような働きかけが適切であるかについて説明することができる。 5) 「障害児」と「障害を持たない子ども」を区別することの意義について考察し、そのことが、障害児にとってプラスになるようにするには、どのような配慮（条件）が必要であるかについての考えを述べるることができる。	◎	◎	◎	○	△	△	◎

FF2511	人格心理学	ある状況で人はその人なりの思考や行動をとります。しかも、別などきの同じような状況でもその人はその思考や行動をとりがちです。このように一貫性と持続性をもったその人特有の思考や行動の特征的傾向の体系を「人格」といっています。「人格」と「性格」はほぼ同じ意味で用いられますが、区別するときには、「人格」は態度、興味、価値観などを含む心の全体的特徴を指し、「性格」は主として感情や意志の側面的特徴を指します。人格心理学では、①個人の全体性と独自性の記述と理解、②個人差の理解と予測、③自我・自己の理解、④人格の発達・形成過程の理解、⑤自己成長・人格変化の過程の解明と援助、⑥人格の障害・病理（葛藤と欲求不満、防衛機制を含む）、⑦人格と健康の関連、⑧人格と文化・性差の関連、⑨人格の理解の方法などについて学びます。このうち、⑥⑧については、補足資料を参照ください。なお、産業カウンセラーの受験資格取得をめざす人は、『産業カウンセリング』（産業カウンセラー養成講座テキスト）も参照ください。	類型論（タイプ論）的見方、特性論的見方、力動論的見方、ロジャーズの自己理論の特徴を説明でき、仕事の現場や日常生活の中で活用できるようになる。	◎	△	○	○	○	△	○
FF2519	心理アセスメント	悩みを抱えているクライアントに心理的援助を行おうとするとき、クライアントを多面的、総合的、全人的な角度からとらえることが必要になります。そのためには、クライアントの生育歴やパーソナリティ、環境などの情報を科学的にとらえ、客観的に評価・査定することが重要です。この評価・査定の方法がアセスメントです。心理アセスメントでは、特に「面接法」「観察法」「検査法」よりクライアントへの接近を試みることにあります。そのとき大事なことは、クライアントの気持ちに寄り添いながら癒しの心を忘れないことです。心理アセスメントでは、これらのことを押さえた評価・査定の学習を行うことになります。	1) 心理面における正常・異常の違いについて説明できる。 2) 心理アセスメントの3本柱である「面接法」「観察法」「検査法」について具体的に論じることができる。	◎	○	○	◎	○	○	◎
FF2522	ライフサイクルと福祉心理学	人間は、生まれてから死ぬまでのライフサイクルにおいて、家族の変容に伴い様々な悩みや問題と遭遇していきます。問題の意味を自己成長というキーワードをもとに考えつつ、その対応をどうしていくのがよいかについて、福祉心理学の視点から掘り下げていきます。自分自身の生き様や家族のことを考えながら学んでいただきたいと思います。	1) エリクソン心理社会的発達の8段階が正確に説明できる。 2) 家族関係の変化に伴って起こる問題や課題を、具体的に解説できる。 3) 家族関係の変化に対して起こる問題や課題に、「福祉心理学」がどのように貢献できるか説明できる。	◎	○	△	◎	○	◎	○
FF3503	臨床心理学	臨床心理学（clinical psychology）の「臨床」は、ギリシャ語の「寝台」（クリネー）から生じた語といわれています。僧侶らが、死を目前にして苦しむ者に手をさしのべ、魂の世話をしたことに臨床の起源があるのです。現代では、魂の世話（卑近なとばでいえば心のケア）が必要なのは、死を目前にしている人たちだけではありません。だれもが、苦しみを抱え、ときに抱えきれずに立ちつくすことがあるものです。そのようなときにその人が自分らしい道を歩き出すために心理学的な援助を提供するという実践的な目的を持っているのが臨床心理学です。心理学的な援助を提供するためには、まず相手について理解しようとするのが不可欠です。人をわかろうとするということは、自分の心を通じて行われるので、まず、自分をわかろうとすることが大前提になります。また、援助は、援助を提供する側からの一方通行では成り立ちません。援助を提供する側と援助を受ける側がお互いに参加する関係があって援助は成り立ちます。臨床心理学では、相互性や関係性についても学んでいきます。	1) 臨床心理学の目的と方法論について、説明することができる。 2) 自分の心の動きについて、臨床心理学の理論を用いて記述することができる。 3) 心理アセスメントの概要を把握し、心理臨床活動における位置づけを説明できる。 4) 臨床心理学的援助の枠組みについて説明できる。	◎	○	○	○	◎	○	○
FF3520	心理療法	心理療法は、今から100年前に誕生し、発展してきた学問領域です。他の科学と比べると若い学問領域ではありますが、急速に理論と実践が発展してきています。それは、物が豊かになった現代社会において緊急課題となっている親子関係、対人関係、自分らしい生き方など、いわば「心のあり方」に関する事柄にこの学問領域が応えているからでしょう。人間の心は、複雑に機能しつつもある程度まとまりをもって機能しています。現代のような複雑な社会において、人間が人間らしく生きていこうとするといろいろな要因により心が十分に機能しなくなることがあります。心理療法とは、深刻な悩み、症状（身体症状も含めて）、問題行動、人格機能等を心理的側面から援助する学問です。人間が複雑な心の働きをするため、その接近法である心理療法も多種多様となります。そこでここでは、心理療法の基本的枠組みと各種心理療法の特徴等を学習することを目的とします。	1) 様々な心理療法をそれを創始した人物の名前、その背景となる理論と共に述べるができること。 2) 各心理療法についての特徴について述べるができること。 3) 各心理療法についての具体的なやり方について述べるができること。	◎	◎	○	○	△	△	◎
FF3521	心理療法各論	カウンセリングにおいて、理論とは、困難に直面した人を理解したいと思ったときに道しるべとなるものであり、技法とは、援助したいと思ったときに道具になってくれるものです。現在よく知られている理論だけでも相当な数があり、それぞれに異なる人間観・治療観・技法を持っています。カウンセラーは、これら多くの理論・技法について、知っている必要があります。一つの理論では、到底理解・対応しきれないのが、生身の人間だからです。同時に、これら多くの理論・技法の中から、自分の臨床実践の背景となる特定の理論を選び、深く学ぶことも大切です。この科目では、「臨床心理学」「心理療法」など他の科目ではくわしくとりあげられなかった「特性因子理論」、「認知行動療法」、「精神分析療法（交流分析、ゲシュタルト療法）」、「人間学的アプローチ」、「家族療法」、その他の療法を学んでいただくと思います（精神分析療法については、他の科目で詳しく取り上げられているので、省略し、交流分析とゲシュタルト療法についてのみ取り上げます）。多種多様な理論・技法の特徴を学びながら、自分のバックボーンとなる理論や使いこなせる技法を見つけていってください。	1) 心理療法の主要な諸理論（特性因子理論、認知行動療法、交流分析、ゲシュタルト療法、人間学的アプローチ、家族療法、その他の療法）について解説することができる。 2) 心理療法の主要な諸理論について具体例を記述することができる。 3) 産業カウンセラーとして、主要な諸理論と技法をどのように活用するかを述べるができる。	◎	○	◎	○	○	△	○
FF3524	犯罪非行心理学	犯罪非行心理学は応用心理学の一領域です。ドラマや映画で描かれるような「犯罪プロファイリング」も、捜査心理学という犯罪心理学の一分野の方法ですが、基本的には、なぜ人は犯罪をするのか、どのようにすれば犯罪をくり返さないようになるのか、そして犯罪の発生を減らし、犯罪に遭わないようにするためには何が必要なのかを現実的に考えるために、近接した学問領域の知見を援用して統合的に考察する学問であると言えます。「犯罪」と「非行」を合わせた名称は、成人による犯罪と未成年者の非行について法律で異なった扱いをすることや、発達段階が異なるため、反社会的行動の性質や立ち直りに影響する要因などさまざま異なる側面を持つことから、それらの相違を踏まえながら併せて考察することを意図しています。	1) 犯罪や非行という行動化の心理・社会的メカニズムを説明できる。 2) 再犯を抑制して社会適応を促すさまざまな処遇方法を述べるができる。	◎	○	◎	○	×	×	○
FG2682	カウンセリング I	様々な援助活動があり、昨年「カウンセリング」という言葉自体が様々な使われ方をしている。心理学を基盤としたカウンセリングの専門的な理論と方法について学んでいく基礎として、カウンセリングの意味や特質などを学び、自分自身の人間観を理解することにより、援助者としての心構えを理論的理解から自分自身を振り返ることを目指してもらいたい。	1) カウンセリングの意味を理解し、カウンセラーとしての責任感を自覚し、説明できる。 2) カウンセリングと他の援助活動の差異を説明できる。 3) 来談者中心療法の理論を理解し、人間観を身につける。	◎	○	○	◎	◎	△	○
FG2683	カウンセリング II	カウンセリングは、カウンセラーとクライアントによるかかわりあいのプロセスです。そしてカウンセリングの導入期から終結までの各段階には、ある程度共通する課題やかわり方があるとされています。この授業では、インテーク面接やアセスメントに始まり、面接の契約、目標の設定、そして終結に至るまでのプロセスを辿りながら、カウンセリングが実際どのように進められていくかをご紹介します。また各段階におけるカウンセリングの特徴や使用される代表的なカウンセリングの技法についても取り上げます。	1) カウンセリングの各段階の流れを説明できる。 2) 各段階におけるカウンセリングの特徴や注意点について述べるができる。 3) 各段階におけるカウンセリングの技法について理解し、基礎レベルでの習得をする。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
FG3685	カウンセリング演習 I	自分自身が人を援助する際に自分はどういう人間で、どのように人と接しているのか、自分の価値観や考え方に偏りはないかに気づき素直に認める自分があるかを認識してほしい所です。そのうえでカウンセリングの基本とされる「傾聴」の姿勢と技術を実践的演習とグループワークにより体感し、表現することができるよう練習を課します。	1) カウンセラーの基本的態度について体験的に理解を深め、相手に伝わる態度を修得する。 2) 傾聴基本的技法を体得し、適切に活用できる。 3) 自分の態度、聴き方の特徴についてロールプレイ、グループワーク等でフィードバックしながら、気づき、またそれを認めていくことができる。	◎	○	○	○	◎	○	△
FG3686	カウンセリング演習 II	カウンセリングの実践や応用について、体験的に理解していくことを目的とした授業です。1対1での傾聴の姿勢を身につけるだけでなく、逐語記録を使った対話分析などを行い、より適切な応答を細かく検討していきます。伝統的な個人面接に加え、臨床現場で行われているサポートネットワークング、コンサルテーション、危機介入、システムズアプローチなどの援助方法も学習します。ただし、こうした理論の習得だけではなく、グループワークによって非言語のコミュニケーションスキルを磨くトレーニングをしたり、ロールプレイを批評しあったりといった、かなり実践力に比重を置いた授業になると考えてご参加ください。	1) カウンセリングの基本的な技法を使って、クライアントの感情を表す言葉を引き出せる。 2) 非言語のコミュニケーションスキルを駆使して、クライアントとの信頼関係を築ける。 3) 自分の感情や価値観に縛られずに、クライアントの言葉を受けとめながら聴ける。 4) クライアント個人だけではなく、その人の暮らし環境にも視野を広げ、サポートの資源を探し出せる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
FH3510	認知心理学	日常用語としての「認知」という言葉は、「認める」とか「知る」といった意味です。心理学では、それにくわえて推理・思考などの高次精神機能をへて「知る」ということも入ってきます。とにかく「認知」とは広い意味で「知る」ことだと思ってください。ですから、「認知心理学」は「どのようにして知るのか」の学問とっていいでしょう。ただ、「認知心理学」には著しい特徴があります。それは、人は（動物も基本的に同じですが）その時々において、すでに枠組みを持っているのを認めることです。意識することは少ないのですが、私たちは自分の持っている枠組みで外の世界に注意を向けます。ですから、その枠組みに関する情報は引っかけやすく簡単に取り入れられるのです。それに対して枠組み・知識のない分野の情報は、取り込むのに大変苦労したりします。偏った考えを持った人が、そのアンテナに掛かる情報ばかり取り入れ、ますます偏ってしまうことにもなったりするわけです。旧来の条件づけ的な心理学ではこのような事態は説明できませんが、認知心理学では可能になります。さて、この講座では、広範囲にわたる認知心理学領域全体を浅くカバーするのではなく、学習、理解、学習指導、文章の理解といったことを中心に、この学問ならではのアプローチの面白さを実感していただこうと思います。そこで獲得した見方・考え方は、認知心理学の広範な他領域の学習や、日常的な場面への適用をも容易にしてくれるでしょう。	1) 認知心理学のタームを用いて知覚・文章理解・理解・情報探索などについて述べるができる。 2) 認知心理学的に教育や日常の問題を考えることができる。	○	△	◎	×	△	×	×
FH3512	学習心理学	心の科学である心理学は、近年めざましい発展を遂げ、研究領域も大きく広がってきています。心理学において、「学習」は、「経験による行動の変化、あるいは行動の可能性の変化」と定義されています。学習心理学は、このような経験による行動の変容を対象とする研究領域です。学習心理学の研究には、主として動物を対象として行われた条件付けの研究と、人間の記憶の研究という大きな二つの流れがありました。この二つの流れを学ぶことを通じて、私たちの行動がどのような要因の影響を受けるのかを包括的に理解すること、そして学習心理学の応用的成果に関しても理解を深めることが本科目の主な目的です。	1) 学習心理学の代表的な研究について内容を説明できる。 2) 学習心理学の応用的な研究について内容を説明できる。	○	◎	◎	△	×	×	△

FT2604	特講・福祉心理学4 (スクール・カウンセリング)	文部省が平成7年度にスクールカウンセラー事業を開始して以来、公立中学校を中心に、現在スクール・カウンセリングは小学校や高等学校にも広がっています。学校というコミュニティに関わるには、個人心理療法的アプローチだけでは不十分であり、コミュニティ・アプローチが必要となります。学校全体のメンタルヘルスを考える視点、学校という組織にカウンセリングを根付かせる姿勢を持たなければなりません。この授業は、講師がスクールカウンセラーとして体験した実践や事例を紹介しながら、より具体的に理解できるような内容としたいと思います。	1) スクール・カウンセリング事業の歴史について説明できる。 2) スクール・カウンセリングにおけるコミュニティ・アプローチの理論および技法について解説できる。 3) 学校における諸問題について、スクールカウンセラーの観点から論じることができる。	◎	◎	○	◎	◎	◎	○
FT2605	特講・福祉心理学5 (自分さがしの心理学)	文部省が平成7年度にスクールカウンセラー事業を開始して以来、公立中学校を中心に、現在スクール・カウンセリングは小学校や高等学校にも広がっています。学校というコミュニティに関わるには、個人心理療法的アプローチだけでは不十分であり、コミュニティ・アプローチが必要となります。学校全体のメンタルヘルスを考える視点、学校という組織にカウンセリングを根付かせる姿勢を持たなければなりません。この授業は、講師がスクールカウンセラーとして体験した実践や事例を紹介しながら、より具体的に理解できるような内容としたいと思います。	1) 自分の性格や行動の長所と短所を、それぞれ最低でも10項目あげて説明できる。 2) 対人関係を築くうえで改善していく目標を、3つあげることができる。 3) 自分らしさを生かせる今後の人生のプランを、物語にして話すことができる。	◎			◎	◎	◎	◎
FT2608	特講・福祉心理学8 (ストレスとつきあう心理学)	人間は少なからずストレスを抱えながら過ごしています。そのストレス社会を生き延びるのは簡単なことではありません。ストレスがたまって仕方がないという方。どうして自分だけがこんなにストレスを被りながら生きてはいけぬのだろうと嘆く方。どうせストレスなんかなくならないと耐える覚悟を決めている方……。つらさが高じて、ひきこもったり、燃え尽き(バーンアウト)症候群に陥ったりしてしまうのを防ぐために、この講義でヒントを得ていただきたいのです。福祉・医療・教育など、人間の心や身体をフォローする対人援助職に従事する方だけでなく、日常生活ストレスに悩んでいる方にも、気付きと対処スキルを得ていただければと願っています。	1) ストレスを抱えやすい自分の性格や行動の特徴を説明できる。 2) 人間関係を築くうえで使えるコミュニケーション・スキルを、最低でも3つあげることができる。 3) ストレスフルな時の自分の身体の状態を知り、身体に働きかけてリラックスする方法を3つ以上持つ。	◎			◎	◎	◎	◎
FT2609	特講・福祉心理学9 (コミュニティ心理学)	コミュニティ心理学は、1965年アメリカで誕生した、まだ新しい心理学と言えます。現代は、伝統的な個人心理療法だけでは解決できない多種多様な問題を抱えています。例えば、ひきこもりや虐待の問題は、相談室で待ち構えているだけでは、解決が非常に難しい問題です。コミュニティ心理学的アプローチでは、そのような心理・社会的な問題に対し、どのように取り組んでいるのでしょうか? 心理的・社会的な問題は、専門家だけでなく、コミュニティに共に生きる全ての人々が、自ら考え、関わりを持っていくことで変化していきます。本講義を通して、そのような基本的な発想と姿勢を身に付けて頂ければと思います。	1) コミュニティ心理学の基礎知識について述べるができる。 2) コミュニティ心理学の発想をもった心理臨床家としての視点・基本姿勢について説明できる。 3) 様々な領域において、どのようなコミュニティ・アプローチがなされるか理解し、その上で、伝統的な個人心理療法との違いを説明できるようにする。	◎	○	◎	○	△	◎	◎
ZZ5991	卒業研究	卒業研究は、在学中における学習成果をもとに、各自が研究テーマを設定し、担当教員の指導助言を受けながら、論文を作成するものです。必修科目ではありませんが、学生時代に学問的な創造性を発揮し得る絶好の機会です。自分がはたして大学で何を学び身につけることができたのかを確認することもできます。時間的な余裕のある学生は履修することをお勧めします。	1) 卒業研究のテーマを見つけることができる。 2) テーマに関連した文献をレビューできる。 3) 研究の目的を考え、研究デザインをつくることができる。 4) 仮説を立てることができる。 5) 調査のための質問紙の作成と、調査が実施できる。 6) 結果について統計処理ができる。 7) 考察を行い、論文としてまとめることができる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

● 専門選択科目 B 群

科目コード	科目名称 (旧カリ=旧カリキュラム 受講者用科目)	主題	到達目標	ディプロマポリシーとの関係 (◎特に重要, ○重要, △望ましい)						
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
DA3146	統計情報を見る眼	私たちは普段テレビや新聞、広告などを通してたくさんの統計情報に接しています。統計情報は物事を客観的に理解し、人に伝える上で非常に有効で便利なものです。さらに、統計情報を適切に「読みこなし」「使いこなす」ことによって、そこから有益な結論を論理的に導き出すことが可能になると考えられます。しかし、その反面、このように統計情報を適切に「読みこなし」「使いこなす」ことは必ずしも簡単なことではありません。さらに言えば、それができなければ、統計情報に「騙され」、知らず知らずのうちに真実とは異なる解釈に至ってしまったり、真実とは異なる印象を抱いてしまう危険性すらあると考えられます。本科目では、まず、統計情報の種類やそれらの特徴について理解することを目的とします。さらに、それを解釈する際の統計的な思考法について学んでいくことを目的とします。以上を通して、統計情報に騙されることなく、それを「読みこなし」「使いこなす」ことができるよう「統計情報を見る眼」をより豊かなものにするを目指します。なお、統計情報は事象を数値的に処理したものであり、統計情報についての理解を深める上である程度の数学的な知識が必要になります。その点で、特に数学に苦手意識を持つ方には、履修することがはばかれる科目かもしれません。スクーリングでは、この点を考慮し、数学的な内容は必要最小限にとどめ、統計的な考え方の習得に焦点を当てていくこととします。	1) 記述統計と推測統計について説明できる。 2) 平均や度数といった統計情報の特徴、およびこれらを理解・使用する際の留意点について説明できる。 3) 相関について、さらには、相関関係と因果関係の違いについて説明できる。 4) 統計的検定の思考法について説明できる。 5) 示された統計情報、そして、そこでなされている主張について批判的に検討できる。	○	◎	◎	×	×	×	△

※ その他の「共通基礎科目」「専門選択科目 B 群」は、社会福祉学科 カリキュラムマップを参照してください。